

正徳五年二月申漸

筑後守從後下源君美

西洋記聞申卷

大地海水と相合く其形圓なり事球のやうにして田の中を居る

譬も鶏子の黄が青を内を有るごとく其地球の周圍九萬里

ありて四方皆人ありて居るを凡其地を別ちて五大洲と云ふ

一ツにエウロパ 漢一歐羅巴と譯し其地は海峽の西にありて西人謂て支那の音非かりと云ふ後アラスカ河榮陸人より其地を以てし然るなり

我俗エウロパハのり 漢一歐羅巴と譯し其地は海峽の西にありて西人謂て支那の音非かりと云ふ後アラスカ河榮陸人より其地を以てし然るなり

俗に奧南蛮と云ふ地方即ち此なり 漢一歐羅巴と譯し其地は海峽の西にありて西人謂て支那の音非かりと云ふ後アラスカ河榮陸人より其地を以てし然るなり

二ツにアフリカ 漢一利未亜と云ふ譯し其地は北にありて西人謂て支那の音非かりと云ふ後アラスカ河榮陸人より其地を以てし然るなり

三ツにアシア 漢一亞細亞と云ふ譯し其地は北にありて西人謂て支那の音非かりと云ふ後アラスカ河榮陸人より其地を以てし然るなり

四ツにアメリカ 漢一亞細亞と云ふ譯し其地は北にありて西人謂て支那の音非かりと云ふ後アラスカ河榮陸人より其地を以てし然るなり

五ツにアメリカ 漢一亞細亞と云ふ譯し其地は北にありて西人謂て支那の音非かりと云ふ後アラスカ河榮陸人より其地を以てし然るなり

六ツにアメリカ 漢一亞細亞と云ふ譯し其地は北にありて西人謂て支那の音非かりと云ふ後アラスカ河榮陸人より其地を以てし然るなり

七ツにアメリカ 漢一亞細亞と云ふ譯し其地は北にありて西人謂て支那の音非かりと云ふ後アラスカ河榮陸人より其地を以てし然るなり

八ツにアメリカ 漢一亞細亞と云ふ譯し其地は北にありて西人謂て支那の音非かりと云ふ後アラスカ河榮陸人より其地を以てし然るなり

九ツにアメリカ 漢一亞細亞と云ふ譯し其地は北にありて西人謂て支那の音非かりと云ふ後アラスカ河榮陸人より其地を以てし然るなり

十ツにアメリカ 漢一亞細亞と云ふ譯し其地は北にありて西人謂て支那の音非かりと云ふ後アラスカ河榮陸人より其地を以てし然るなり

漢に記して大西洋に至るに至るアフリカ地方南ハカアホテホ子イスラフテランサ

に至る只其東北の地僅て一路ありてアジアの地とてお研ぎ

マタカスカ アフリカ東南海中の島あり 西ハヨセヤーススエテウヒトツス アフリカ東南海中の島あり

に至る只其東北の地僅て一路ありてアジアの地とてお研ぎ

アジア地方ハ東ハヨセヤトス子ニシス 東洋と云ふ の諸島ト至ラ

ヤアババリウキウエソホの國と云ふ ヤアババリウキウエソホの國と云ふ 西ハタナイス 大乃河 ホントスエキニノス

黒河的湖マールニケータラニウム 地中 マールブルム 西紅海 マールラン

チードル 南海 の諸島 スマタラソコ マアタラハ沙馬大喉口

ト至ラ小ハタルターリヤマーリヤ タルターリヤハ靴紐 マリヤト云ふ

又至るノアルトマメリカの地四海の隅に也ト云ふ 又至るノアルトマメリカの地四海の隅に也ト云ふ 其西北僅

一路ありてソイテアメリカの地トお聯り ソイテアメリカの地トお聯り

ノールトアメリカと云ふ ノールトアメリカと云ふ 此の地 此の地 小ハタル

ウニランデヤト云ふ ウニランデヤト云ふ 此の地 此の地 小ハタル

東ハ列 東ハ列 マールアットラントイフム マールアットラントイフム の地 の地

按 按 此の地 此の地 大西洋地球地平等の図 大西洋地球地平等の図 其由 其由

大明吳中明萬國坤輿圖 大明吳中明萬國坤輿圖 ト云ふ ト云ふ 改羅巴國中 改羅巴國中

蓋其國人及拂郎機人等皆好遠遊時經絶域則相傳而誌之積 蓋其國人及拂郎機人等皆好遠遊時經絶域則相傳而誌之積

漸年久稍得其形之大全 漸年久稍得其形之大全 我今大西人 我今大西人

板の輿地圖 板の輿地圖 と云ふ と云ふ 彼其國 彼其國 と云ふ と云ふ 其精妙 其精妙

七十年前 七十年前 ヲ ヲ ランデヤ人の鏤 ランデヤ人の鏤 其精妙 其精妙

西洋地方 西洋地方 也 也 得易 得易 其精妙 其精妙

ことごとく別今事なすて歳々朝貢する阿蒙陀國の事
 して萬國坤輿圖（マールティンチカ）の隅蒙地則蒙地とて稱し西洋
 布地二島最妙と注せしもの即是（隅蒙地の別マラント列島の
マラントの属洲ヤラント即是）
 之のゆゑに於て阿蒙陀人に似り昔本國の人ニコラアンス
 とつもの天文地理の書に於て詳しく又舟を操るものも
 して六大船（和）の衣食器械等も載りて載りて大洋に
 していよいよ舟を自造りて舟の風儀の事も好しめり
 とも人を名物とすらるるものも載りて焚棄かき
 程は六の事と云ふは餘り此物と云ふ事の中にも
 了りて萬國坤輿圖の説よりも詳りしものなり
 此の事一冊の地ニツイテアメリカの事も此の詳なり

ことごとく其マラント海板に當りては萬國坤輿圖并ニ事
 月令度我天經或向圖書編等にも其の事も載りて
 皆そ大略とて載りしものなり又按るに南島國に改羅巴
 利未亞亞細亞南北亞墨利加の外に墨瓦刺泥加（マッロウチヤチヤチヤ）の一海を載りて
 六大海の事も其説に墨瓦蠟泥係拂郎機國人姓名最六十年始
 遇此峽并至此地故改羅巴士以其姓名名峽名海名地とて
 此も即是之ニコラの番書に載るものなり
 マラント人の事も拂郎機國人と云ふものなり
 海板圖にも其の事一冊に載りしものなり
 是れも其の事也又萬國坤輿圖説にも亞墨利加合為
 南島國の事も載りしものなり今阿蒙陀海板圖にも其の事

その地は... 洋の... 説く... 地は...

エウロ諸國 諸國の王都す イタマリヤ 意太礼亜

エウロの地 中地 有 小地 ローマ コロン

西方教の王都 す 有 て 周圍 僅 十八里 其 の七十 萬 人

乃 も 俗 機 巧 め て 器 を 製 す る 極 め 之 緻 有 り 其 教 紀 之

主 も テ ウ ス の 教 と 當 る 軍 國 の ゆ に ま 各 地 ド ウ ク ス 教 を

心 を 掌 ぬ ドウ ク ス を 首 長 と 地 中 阿 ら コ ラ ア リ ウ シ ウ ブ リ イ と せ る

赤珊瑚樹 景 シー ー リヤ 海 証 す 聖 里 聖 と エ ウ ロ ハ 極 も 地 中

海 の 一 島 之 比 勝 二 山 と 一 山 並 よ 比 と 出 て 一 山 並 よ

煙 を 出 して 昼 夜 絶 す と す

據 る に 本 朋 克 永 年 間 に 來 り 耶 蘇 の 徒 一 コ ン

パヤヨセフ ミ ツ リ い び の 人 に ヨセ ウ 徒 一 山 に 據 り て ま 國 本 三 ち の ゆ へ り

ホルトカル 海 証 す 波 ル 杜 瓦 ル い 又 波 羅 多 伽 兒 い 又 蒲 羅 郁 家 い 又 む 我 俗 ホ ル ト カ ル ト キ ス も ブ ル ト カ ル い 又 南 亞 と い ハ 耶 蘇 國 都 タ リ サ ボ ン ス リ ス ボ ン

エ ウ ロ ハ 海 女 の 地 と 其 に 並 ぶ 其 を 海 外 諸 國 一 と して は 其 の

ア シ ア 地 カ コ ア ニ カ ー ヲ ニ ロ カ 等 れ 地 と 其 に 並 ぶ 其 を 互 市

其 の 地 と 其 に 並 ぶ 其 を 互 市 コア ハ 絨 俗 一 コラ ト ハ ニ カ ー ヲ テ 絨 俗 ア ニ カ ッ ト ス ニ ロ カ マ シ テ ヤ ト ス ハ 何 の ゆ へ り 西 洋 の

其 の 地 と 其 に 並 ぶ 其 を 互 市 又 天 主 の 法 津 衛

其 の 地 と 其 に 並 ぶ 其 を 互 市

據 る 一 ホ ル ト カ ル 人 神 と 其 後 國 を 來 り 其 の 天 文 十 年

其 の 地 と 其 に 並 ぶ 其 を 互 市 天 文 十 二 年 八 月 之 度 長

元 和 の 冒 嶽 未 紀 五 和 天 川 等 れ 人 と 其 の

其 の 地 と 其 に 並 ぶ 其 を 互 市 天 文 十 二 年 八 月 之 度 長

五 和 天 文 十 二 年 八 月 之 度 長

其 の 地 と 其 に 並 ぶ 其 を 互 市

國と云ふはノールワイスパンヤと號すノールは北の島新に傳ふは北の島我俗乃

と後すはアジアの地カルクワンカルクワンは北の島新に傳ふは北の島我俗乃

拙らに慶長年間には始て来初すは後呂宋新伊新把依

無名は高船来りて始に北の島に居る人の名はるなり

高船来りて止めしは北の島に居る人の名はるなり

のまゆはし碑を修むるを懸く

カステイリヤカステイリヤも北の島に譯して加西即こふイスパニヤの東南に

ありて北の島と号す

拙らには北の島に城國ありて北の島に居る人の名はるなり

始て天主教は北の島にララニシクスサヘイリウスと云ふ

人の名はる人からしむる

カアリアカアリアは北の島に譯して佛郎機と云ふ

イスパニヤヨランダヤ等北の島に居る人の名はるなり

拙らには北の島の高船に北の島に居る人の名はるなり

或るは北の島に大明の書に佛郎機國と云ふ

ホルトカルホルトカルは北の島に譯して佛郎機と云ふ

彼羅多伽兒彼羅多伽兒は北の島に譯して佛郎機と云ふ

たり佛郎機と云ふフランカレイキフランカレイキは北の島に譯して佛郎機と云ふ

フランカレイキと云ふ佛郎機と云ふ

西洋人大明に居る人の名はるなり

武宗正徳十二年佛郎機國に

ありて北の島と号す

X

入貢を油と銀とを乞へりて正徳十二年、本朝、永正十四年
了りて、南蠻の船を番船として、我が國より、天文十年
了りて、おるる、その、世、回、り、了、り、な、つ、た、り、

セルマニアヤ ヨランダの地、ハ、ホーゴトイナも、トイチも、 エウロパ地、ガの、方、を、め、て

國、都、と、い、は、エ、ン、ナ、と、い、は、じ、が、地、を、お、お、ね、て、こ、も、ま、ま、と、イ、ン、ペ、ラ、ト、ール、と

と、稱、し、る、は、屬、せ、り、ホルトス、七、人、有、 イ、ン、ペ、ラ、ト、ール、ホルトス、七、人、有、り、

ハ、ル、ス、九、人、有、り、 孰、が、是、ち、の、地、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

得、り、し、も、是、を、物、と、し、る、を、お、お、ね、て、名、馬、を

田部
ヤ
エン
ヤ

X

セルマニアヤの東、ホローニアの北に

セルマニアヤの東、ホローニアの北に

セルマニアヤの東、ホローニアの北に

セルマニアヤの東、ホローニアの北に

セルマニアヤの東、ホローニアの北に

セルマニアヤの東、ホローニアの北に

セルマニアヤの東、ホローニアの北に

セルマニアヤの東、ホローニアの北に

セルマニアヤの東、ホローニアの北に

セルマニアヤの東、ホローニアの北に

セルマニアヤの東、ホローニアの北に

セルマニアヤの東、ホローニアの北に

の徭役苛酷かりに地は...
 ...お接し戦ふの八十餘年ヨラント終り
 イスハニヤの十列を侵し棄る諸國も...
 ヨラントを侵し地をゆして平く...
 歌とれもの...
 リカアニア精海の地を侵し...
 ...エウロハ一方の諸國かり...
 イスラント、ヨララント、セーラント、クルーミンゲ、ゲルトラント、ウイトヨキトを侵し
 ...カアプトボ子ス、ペイ、ゴドロール、マロカ、バタマビヤ、ヨララ
 テヤ、ゼイラン等...
西人のいふの...
 ...

略しぬ

捕らにけふ地...
 の...

アンデルア アンデルア共云イタリヤの地...
 ...

...
 ...

...
 ...

...
 ...

...
 ...

あつて、さる正妃と稱して、寢るを以て、天主の教を他教と
認め大戒のいじりおぼへたの事、大戒のあつた事、いふに
もあつた事、奉ずる法、いふに、いふに、ヨラント人を
いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

スコツテヤ ヨラントの海、スコツトランド、いふに、いふに、いふに、 エウロパ、あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

アンデルア ヨラントの海、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、 エウロパ、あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

イロマイペリニヤ ヨラントの海、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、 エウロパ、あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

アンデルアスコツテヤ ヨラントの海、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、 エウロパ、あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

のねも、エウロパの海、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

大元エウロパ地の、あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

あつた事、奉ずる法、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

フランドル人の後を有るに
君を尊ぶるはたすに

六卿の... 又コフウ役... エウロハ地方... びが法王君長の位輝

数有る有... ホニテキスミギスイス... 是最才一画上等の

天王の... びが法王君長の位輝

レキス... フランスヤアゲデ

又名... びが法王君長の位輝

無... フランスヤアゲデ

びが法王君長の位輝

編... エイズス

の徒... びが法王君長の位輝

ラテン... びが法王君長の位輝

ア... びが法王君長の位輝

ユテヨラとラテニの譯ありてイタリヤの地也と云テアラス譯あり
必徳垂くはつとらるる古の玉の名今減くはるる玉の孫はまゝ五馬であるものとヨク

ラテニとらるる古の國名今も地洋るるキリイキス亦これ同く

その中ラテニとらるるは方洋るるお魚きほりてはるる

さるる地玉の人をもはつとらるるあはつとらるる

西はつとらるるラテニの譯ありてイタリヤの地也と云テアラス譯あり

ラテニとらるるは方洋るるお魚きほりてはるる

その中ラテニとらるるは方洋るるお魚きほりてはるる

さるる地玉の人をもはつとらるるあはつとらるる

西はつとらるるラテニの譯ありてイタリヤの地也と云テアラス譯あり

ラテニとらるるは方洋るるお魚きほりてはるる

その中ラテニとらるるは方洋るるお魚きほりてはるる

悉くはつとらるるあはつとらるる
アフリカ諸國
トルカ イタリヤの海よりトルコより他邦へ
ヅルコと云譯海を本も洋を國全國都宛を言 い國も地も遠くしてアフリカ吾國
アジアの地方一つはつとらるる國名今も地洋るる古の玉の名今減くはるる玉の孫はまゝ五馬であるものとヨク

アフリカ諸國
トルカ イタリヤの海よりトルコより他邦へ
ヅルコと云譯海を本も洋を國全國都宛を言 い國も地も遠くしてアフリカ吾國
アジアの地方一つはつとらるる國名今も地洋るる古の玉の名今減くはるる玉の孫はまゝ五馬であるものとヨク

北中地 其依タルターリヤに
韃靼國 ひく常悍敵すはるる各馬の多き
るの一日めして二百千と云はるる日と暦りてはるる

るの一日めして二百千と云はるる日と暦りてはるる

撥とらるるはつとらるるアフリカの地方悉トルカを屬し又東中とら
セルニヤに属する東中ハスマアタラフと云はるる又セルニヤ

アフリカに属する東中ハスマアタラフと云はるる又セルニヤ

のしつとゆふよき地東北タルウリヤノお解ふ是ぞ種類なりこ
 いふさうとトルカの地あわらホルトカルの地ノお接し東のハ
 ムスコビヤの東ノ一むれり ムスコビヤをセルシヤの東ノ一有て
 湯をくタルターリヤにおく 只も東も
 満て城てスニータラに即るをいふ一層はさうのらけり
 ちも甚大なるるものか

萬國坤輿図等此法後改定のみにもはは淺き詳なりぬ
 ちも海はわたり

按さるに萬國坤輿圖ノ利未亞列大身瓦國者ノ馬尔馬利
 加の地ノ近しち大身瓦事とらトルカカの名精一記しる
 又都尔の名と注してその下の字淺減せし亦あは善事と
 ねく考ふるにぬりぬ

カアツトボ子スヘイ イタリヤの海はカアボテボ子スヘイと云いヨランドの地はカアボテボ子
 フランスもカアフとも云淺き詳なりぬ 即海ノ大浪山を
 ちも海はわたり

カアツトボ子スヘイ イタリヤの海はカアボテボ子スヘイと云いヨランドの地はカアボテボ子
 フランスもカアフとも云淺き詳なりぬ 即海ノ大浪山を
 ちも海はわたり

アフリカ極東の地ノ有虎豹獅子禽獸の類を多く一近世ヨランド
 人々地を海海しこ云 ヨランド人の地と云い海をわたりにあははは言海船を
 洋しともいふ海船の地はこもにらるるをいふは

アフリカ極東の地ノ有虎豹獅子禽獸の類を多く一近世ヨランド
 人々地を海海しこ云 ヨランド人の地と云い海をわたりにあははは言海船を
 洋しともいふ海船の地はこもにらるるをいふは

アフリカ極東の地ノ有虎豹獅子禽獸の類を多く一近世ヨランド
 人々地を海海しこ云 ヨランド人の地と云い海をわたりにあははは言海船を
 洋しともいふ海船の地はこもにらるるをいふは

按さるに萬國坤輿利未亞の地セ百海者と云いちの
 名の大川、セ大略と云いロー二人ヨランド人の説く亦も
 此方の古俗人物等皆洋るものらるるはトルカの地ノ係
 ぬき、エウロバ人等のすけりてちもゆき海を
 けは只もカアツトボ子スカの地ヨランド人説く亦も人

合戦しし〜云云 ヨラント人ニタカスカフ〜此處を〜人農

アシヤ諸國 アシヤ諸國 ハルシヤ アシヤ諸國

アフリカ地方の東に隣りモールの所を〜

抽るに〜ヨラント人〜

地を〜ハルシヤ〜

お初葉長年間暹羅東捕獲され玉碑を通〜

馬を〜

ヨラント人の証〜

モゴル 英臥兒又、莫卧兒 古の印度の地〜

豊飴〜

ベニカラ、サラアタ、インドスタント〜

モンテール〜

かゝる人錫蒙山脚〜

抽るに〜

エイズは〜

アコマタ〜

〜

〜

ベニカラ ヨラントの海〜 アコマタ〜

色布帛〜

イニテヤ 西印度の地

コア〜

地了擲て互布れしを答に コア海了即垂る故を 一ルバルヤウルサントメイ

等々凡多あり居る所水の地名にして、コア海了即垂る故を 俗モゴル一抄りたる云

一ルバル又モ一ラハルとも云ゴアの南にありヤウルサントメイ等の地各布帛とせし即今布帛の朱

抄りたるヤウルサントメイ海諸りまはるいりたる云

抄りたる神めホルトガル人コアの地了擲て終る所也

海陸の地と傍りて、コア海了即垂る故を 一ルバルヤウルサントメイ

等々一に本湖等なる之の百或らあてはる終る所也

等々の所一或らあてはる終る所也

一五和天川の人とりり 五和即コアの天川に即阿媽港なる地

一五和天川の人とりり 五和即コアの天川に即阿媽港なる地

乃中には海と山と佛足跡の跡に存せり 佛足跡の

地たりと云ふ俗モゴルよりして、佛足跡の 地古珠宝石肉桂檉柳子等を産せし云

抄りにびるの地はコルレボと抄りたるあり、佛足跡の 人色をり抄り

いふ所の諸島奴等たりヨランダ人の所なり 佛足跡の

近き地の人悉皆クロンボめり、佛足跡の 性慧ありて云々

いふ所コルレボの地の諸島あり、佛足跡の 人色をり抄り

人の色をり抄りとクロンボよりして スイヤム ヤム又てヤムロー 古の時遅し

所解と二国あり大之至正のは所解人遊と合せり 古の時遅し

あもりスイヤムす、ヤム又てヤムロー 古の時遅し

もかたりありて氣候熱甚し、古の時遅し 冬月にあり

夜涼し、古の時遅し 人標髻髹體絲帽をりて抄りたるあり

抄りたるあり 古の時遅し

梅るに本朝慶長年留てま始く使と之如是永の旨を
王志に今奉る書を 我信よふ礼 奉て砂印を今に於て
そし高船の来りる方々寄りて

其のそのあふの人かて終て王居とるものも有て人まはる
の執事を書砂をせしるれりるる孫をたれしあり

附

台城 我信ヤニバと云ふ名 東浦塞 其字智 激浦只 漢浦塞は月

二國こゝに暹羅の東より大泥 我信冬と云 暹羅の東より

本朝其の長の地の昔に我信し 我信と云 台城の東より

砂を 我信と云 東浦塞の築砂は 我信と云 永に地あり

只 我信と云 高船の来りるの 我信と云 地あり

我信と云

乗船して西南東にカキヤ
とらふ東浦塞をいひ
また又日智と云
激浦と云ふ一帯の地
わりの名は身障園
こりて多の別ありて
水真海陸と云ふ
川津海の別ありて
地ありて

一口カ 一口カ又て一テヤと云ふ 偏刺加と云ふ 麻加共
暹羅を諱していふ 國と称する

スイヤム西南の方海よのせめる

地 地ありて け地ありてホルトガル人據る所今ヨランダ人奉りて居る

梅 梅と云ふ 本朝其の長十七年二月ヨランダ人奉りて書て

カステイリア人と一口カ 我信と云 我信と云

カステイリア人の柳りて 我信と云 ヲランダ人戦ひ退りて

家 我信と云 柳りて 我信と云 カステイリアと昂カステイラホルトガル

の與國

スマアタラ ソモンタラ共云 須門那 須文達那 蘇木都刺 蘇門塔刺
蘇門答刺 沙馬大刺 等

アジア地方東海の中にあり僕 我信と云 東心海に隔て居一口カ地

かり 我信と云 東心海の下にあり春秋の二分より日影を

そ 我信と云 東心海の下にあり春秋の二分より日影を

日影少くありて氣候極めて熱く夏季も人も熱ありて
 人皆裸形にして多きは信又遊歴し始りて地黃金を賣
 コラント人の心と云ふは云々 ヤカタラ 海に咬喇巴す夾留吧 味留吧
 スニアタラ 東も海中にありては金すくヤカト云 海に咬喇巴す夾留吧 味留吧
 ヤカタラもコラント人播る所地名ありては活城とバタアビヤナ
海に咬喇巴す夾留吧 味留吧
海に咬喇巴す夾留吧 味留吧
 これ本島に主教すれ而して王とてススムと稱し其地を
 布と稱し其地を頂と稱し神宮と云ふは其地を
 地方をめぐりて穀一歳して再熟して鹿物又豊穡と云ふは其地を
 風をめぐりて姓をいぬるなりヤカタラはホルトガル人のめ
 したる所前九年餘をコラント人の心と云ふは其地を

本棚之和元年
会衆のタカ

7

梅と云ふは其地の名コラント人バニタニと稱するなり
 バニタニと即ヤカトの地名は淡と譯す其地をいふは其地を
 雲と云ふは其地の名ヤカタラの心と云ふは其地をいふは
 海人の心と云ふは其地の名と云ふは其地をいふは

ボル子ヲ ボル子ヨキハボル子ヲ スニアタラの東ヤカトの東ありてあり
漸泥す波耳區何と云ふ

古俗スニアタラと同し其地は精純を賣るなり一カサル 海に咬喇巴す夾留吧 味留吧

其他の名はセレスと云ふ 海に咬喇巴す夾留吧 味留吧

本島と云ふは其地の名と云ふは其地をいふは

附 一カサアルの東の海中にメニタナヲと云ふ メニタナヲ海に咬喇巴す夾留吧 味留吧

此海島は多し一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に
洋に多し一は少し一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

ロクソン ロクソンとは云々詳不詳宋と云々我信してルスニ チイナのキャンタンの島あり

チイナで支那のキャンタンの島あり 一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

マニラ マニラ マニラとは云々詳不詳宋と云々我信してルスニ マニラ

一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

イスパニヤの島を採り一はチイナ人集り採り一は十二万許又ヤアパニヤ

東海中に島あり一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

日本 の子孫は一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

かたし人本國の島を採り一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

槍を採り一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

御さふ一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

イスパニヤの島を採り一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

ドクを採り一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

採り一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

ノーワヨランテヤ海島あり一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

海島あり一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

人一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

本國の人一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

禽獸の一は皆人跡なし一は少くは多し一は洋に

るものも痛くはなれず残りの僅くもゆくゆくは
 ノーワラニテヤと名附くものと地を併得たるの義ありあはれ
 本國の人あたらしめりあはれしるるありと云
けいふ洋文にて
 所定所のしるる

捕まぬよき人おとすてチイナと云ふ即支那之タル
 リヤと云ふ即韃靼之ヤアパンニヤと云ふ即日本之
 地方のゆきを經馬を以て係りたることを彼の
 地ゆきと云ふ萬國坤輿圖より見る韃靼の東方海より
 まる地を以て本國室草野作等れまて地ありと
 云ふより河案に海板の等しき河案に人の名を以
 てエソ
エソ清より新て野化云云我々にて
 俄かしてその地あり
 の此れ地タルタリヤにお解き

や言ひしに詳くは本國海板は國を東も海は地の
 へ言ひては海はまはりにては海はのこすては
 通多し合はりゆきまはりにては海はのこすては
 又ヨランダ人よりヨランダ地方よりこすては
 へ言ひしに詳くは本國海板は國を東も海は地の
 へ言ひては海はまはりにては海はのこすては
 通多し合はりゆきまはりにては海はのこすては
 又ヨランダ人よりヨランダ地方よりこすては
 へ言ひしに詳くは本國海板は國を東も海は地の
 へ言ひては海はまはりにては海はのこすては
 通多し合はりゆきまはりにては海はのこすては
 又ヨランダ人よりヨランダ地方よりこすては

ここのは日本の
 里数あり

これは即タルタリヤニヤと云ふ
 名の韃靼地を以て云ふ

此より東へは行程僅く三四千里に過ぎぬといはれ

の外ノイノワカラナク

カラナク洋行しき洋行しき洋行しき洋行しき
地ノイノワカラナクノ由地中出のよりあり

ワアンタルシア

アンタルシア海ノ大層西亜
とてホマテエヨハ地ノカラナクノ西ノ地

不詳のよき洋行しき

ランド人の後ノアメリカの地六七月のはまをぬじりて
されども各風をぬきしきき洋行しき

ソイテアメリカ諸國

バシリヤ

ハラシヤとシム洋行
伯西見と名を所い

ソイテアメリカ東方の地ありて地極めく荒

洞ノ一ノ東南のよき洋行しき

好々くを合へてその海の中セントシセント

とていふこと

セントシセント洋行しき洋行しき洋行しき
淡把姑淡婆姑淡芭菰名の洋行しき脚是烟州

捕らるる秘府ノエウロパのクラント

人ノ戦ひ様しきとていふこと

エイズスのまじり地カ

クラントとエウロパの俗名しき洋行しき
を因に洋行しき世ノ地ノあり

附

萬國坤輿図ノ抄ノ一ノ南極利加巴大温の地

ノ地ありテランド人ノ地ノ一ノ昔本島の地

ノ地ありテ其ハクゴラスの地ノ一ノ人

ノ地ありテ其ハクゴラスの地ノ一ノ人

ノ地ありテ其ハクゴラスの地ノ一ノ人

ノ地ありテ其ハクゴラスの地ノ一ノ人

ノ地ありテ其ハクゴラスの地ノ一ノ人

ノ地ありテ其ハクゴラスの地ノ一ノ人

ノ地ありテ其ハクゴラスの地ノ一ノ人

海とすいげ地をくそ刃しめあひつゝこせむ。パタゴラス所
海し巴大温と譯きし事す。萬國坤輿圖しは方亭露
國産香名バル婆摩樹上生とれ油の刀と譯し劃之油
出塗尸不敷とる即し西方地方より出れ所々バルサモと
いふものけ樹油にヨランダ人よけおとす地をヨランダ
ヒヤムと云はれし字露と譯し而してバル婆摩帛バルサ
モナリ

附

當時エウロハ地方悉戦ふとてつゝしは地めイスパニヤの地名
をイノセチウストローデーシムス嗣とすはた子孫一國人をセルニヤ
の夫は弟とあり名々カアロステルチウス必しを嗣とるは

シビタリとれセルニヤといひ方の地名ありてあるとせざる名のみを
イスパニヤの外姓ありとるなり
イノセチウスとイスパニヤの名はトローデーシムス
と名ありチナニヤとてつゝしは西の大抵より十二代

アメリゴ・ヴェスプチチが名をかりてセルニヤの夫の名はトローデーシムス
セルニヤの夫の名はセルチウスとてつゝしはチナニヤとてつゝしは

十年前より於て 本朝元禄十三年 庚辰より イスパニヤの夫ありて

むつと嗣とて定むるは親戚者居りて遺令して一封の書
を以て家系をばけしは推して天主像前よりむつとひり
るは我嗣のゆゑにありて志をきりて人をもとを推して
ローマにて天主の像ありて推してはフランスヤの
夫は孫名にピリイフスキントスとて嗣とすはつゝ
クリントスとてつゝしはフランスヤの夫は孫名にピリイフスキントス
とてつゝしは人をもとを推して
夫は孫名にピリイフスキントスとて嗣とすはつゝ
夫は孫名にピリイフスキントスとて嗣とすはつゝ

フランスヤの老は孫をむくく老くしてを冠するも
世をばくく信りて付せりおぼしき
の世をくくくは方のれかりて

セルニアヤの老はむくくしてを
るをと細めむくくローシンのホニテ

ホニテヘキスイスムスリ又最一
は方殺しの王の号シトーテムス
セルニアヤフランスヤの

夫了取きてお年かむぬりセルニアヤの老も
レヲホルースとして水軍四方の將として

レヲホルースとして水軍四方の將として
レヲホルースとして水軍四方の將として

パニヤ一紙も其のホルトス悉皆
ホルトスとして水軍四方の將として

ホルトスとして水軍四方の將として
ホルトスとして水軍四方の將として

とありて水軍をあらむくく
セルニアヤとして水軍をあらむくく

セルニアヤとして水軍をあらむくく
セルニアヤとして水軍をあらむくく

興由もむくく各もむくく
興由もむくく各もむくく

戦いむくくあむくく
戦いむくくあむくく

あセルニアヤの老あり
あセルニアヤの老あり

あセルニアヤの老あり
あセルニアヤの老あり

十八万人解りてポローニヤの老あり
十八万人解りてポローニヤの老あり

泥垂セルニアヤの三國をむくく
泥垂セルニアヤの三國をむくく

まむムスコボヤサクソニアおく
まむムスコボヤサクソニアおく

コービヤまむトルカと戦ふ
コービヤまむトルカと戦ふ

の人もむくくあむくく
の人もむくくあむくく

これ本朝宝永四年丁亥の事
これ本朝宝永四年丁亥の事

すぬよアングルアヨラテヤ
すぬよアングルアヨラテヤ

チビリタイラーズむくく
チビリタイラーズむくく

後々僕了すぬもくこくをさぬいふ カナアリアヤシ海軍の元
エウロの海軍ありて

フランスヤフラスナヒリクイラて
ホルトカルトルカをいはつて 續 あはれは先庚申より丁未の間の
後より後よりヨランダ人の役とて

ヨランダ人フランスヤイスバニヤをいへて戦ひ一万餘人を斬る

フランスヤの地レイセルバルケタウル子キの二城をとりヨランダ人

戦ひをいへるものも一万餘人あり乃て庚寅年 おれ宝永
七年なり ヨラン

ト人イスバニヤ人と戦ひぬる人を斬るこゝろ人を虜とす

六月ヨランダ人フランスヤに攻め入り一万餘人を斬り餘人

と虜掠をもヨランダ人も戦ひぬるもの一万餘人あり

こゝドローイヘト子セントメンヌ四城を落し己辛卯年

本朝正徳
元年 七月ヨランダ人フランスヤに攻め入りこゝを占むハレイス

とをとりしヨランダ人の地とす終りセルニヤ人とす

イスバニヤ人と戦ひける八月トルカタルターリヤの各スコビヤ

戦ひく先よりす為り後ノ棄てりトルカの地を復す

又此年秋スウィテとデイスセルカと戦ひぬるもの

先ノ西國地を争ひくデイスセルカの戦ひ利あり

こゝれ地を失ふヨランダ人デイスセルカと接はるはぬ

あまり後々平けしむは年デイスセルカとす

地を傷む一城あり告をいへるは年 本朝正徳
二年 己年の

春アンケルアヨランダ人トルコムスコビヤに攻め入り

しむは月ヨランダ人セルニヤ人とすはイスバニヤフランスヤ

人と戦ひて軍各十万人と斬りぬ一万餘人ヨランダ

セルニヤ人乃戦ひぬるもの九ふ百七拾人あり

軍を引くを七月ヨランダ人フランスヤの地クイノを致
 したる後ヨルゼ子の地に入リて戦ふ故に拒む戦ひ勝
 ちて得た軍を引くを帰るかたへは年以來セルニ
 ヤフランスのさうにたよりなき共闘者もあつたはるが支國
 へ行くお平かめんはあま言あつたおまのさ
 癸巳本朝正徳三年九月支國終るおまのさ各役を承り
 地膚にきくまをくんと還す
 按てはセルニヤフランスヤの戦ひ始り事は本朝元禄
 十三年庚辰より南より兵連が起り十四年めして事は
 らくはる本朝正徳二年癸巳也

君

一字
在中

西洋記聞下卷

大西人ノ関ニ其姓名郷國父母等其事を記し其人答てたり

名とヨワンハツテイスクンローテローシンのハライルモ人

十二人とも侍をせよ
 吉原より出たり

モモアを移るしはれもヨウハシと云ふヨワンといひアコといふも一も近くはるをいふをかり全
 等よりしはるしはれもヨウハシと云ふラテンの侍しホルトカルの侍もアコといふヨランダの侍しヨヤニ
 といふハライルモとロウミンといふ 父はヨハワン。ニローテありて勝り十年母を
 誅すか地名なりといふ

エンヨノフラヤカフカフと云ふ世にあつたりを元年六十九歳に

父の名を
 せん

おのれはヨワンニといひハツテイスクンといふの甲かひいひのさうり昔イエスの大弟子十二人の
 中にヨワンニスといふ者がいたきりすてやん者といふも侍し聖所の名をいふのなよ
 稱をニといひハツテイスクンといふは
 名をシローテトといふ世といふ 兄弟は人長ち女に幼めて死にたを以て

ピソススと云ふは我は年六十一歳に才有十二歳ありてあり

と云ふ二十歳あ幼らして天主の法を受け學了はるる

女ニ成所らしてよの十六人

坊方の學科多く所去人といふの
 とき学科はして各所あり ローニ

是年正徳三年
 正徳三年
 正徳三年

西洋紀聞

新井白石著

三卷一冊

字本

潜ハパアデレ・シドゥチを訊問して一七一五（正徳五）年より以前に成つた
一八〇七（文化五）年介臣序本が作られるまで流布するものなく漸く
一八八二（明治十五）年始めて刊行された。シドゥチ肉俵文献としてのみならず
采覧異言レと共に洋学知識の基をなした。下巻は尚書をから禁
教後始めてキリスト傳及教令史に就いた書である。